

EDUCATIONAL FACILITIES GUIDE

◀ キャンパス施設紹介 ▶

東京都立産業技術高等専門学校は品川キャンパス・荒川キャンパスの2つに分かれています。機械システム・AIスマート・電気電子・情報システム工学コースが品川キャンパス、情報通信・ロボット・航空宇宙・医療福祉工学コースが荒川キャンパスです。品川キャンパスは7階建て、荒川キャンパスは9階建てです。どちらも都心の学校には珍しく広々としていて、快適なキャンパスライフを過ごすことができます。

品川 キャンパス



荒川 キャンパス



食堂



両キャンパスにあります。定食や丼物、そば・うどんなどを比較的安価に食べることができます。ここで持ってきたお弁当を食べることも可能です。また生協があり、文具などのほかにお弁当やお菓子も売っています。

図書館



両キャンパスにあり、レポートや授業の調べ物をするときに利用されています。蔵書数は両キャンパス合計で約13万5千冊。工学系の本が多数を占めていますが、雑誌や新刊本もあります。試験前には勉強をする場として利用することもできます。

スマートスタジオ



品川キャンパスにあります。ロボティクスやIoTを学習するI&Rフィールド、3DCADで設計し3Dプリンタ等でものを作るDEフィールド、これらのものを結合し、社会実装実験を行うCEフィールドから構成され、実践的なデジタルものづくりを行えます。

パソコン室



両キャンパスにあります。パソコンの実習は必ず1人1台で行います。またWindowsだけでなく、Linux、macOSなど様々なOSを使うことができます。アプリケーションも充実しており、WordやExcelだけでなく、専門的なソフトウェアがたくさんインストールされています。放課後は学生に開放しています。

科学技術展示館



荒川キャンパスにあります。航空機・ヘリコプター・エンジン等の実物をはじめ、歴史的・教育的に価値のある各種工学機器を保存・展示しています。外観はジェット機のデルタ翼をイメージしており、外部からも展示物が望めるようガラス張りになっています。

工場



両キャンパスにあります。機械部品を1から作るような機械加工をする目的で使われる場所です。旋盤やボール盤などの加工機械が多数置いてあります。一般には機械加工を行うコースが実習で利用しますが、1年生の時には全員がここで機械加工の実習を行います。

グラウンド



両キャンパスにあります。荒川キャンパスでは、300メートルのトラックを持つグラウンドと、東側の一部にゴルフ練習場、西側に砂入り人工芝テニスコート4面を設置しています。体育授業やクラブ活動、地域の方への開放事業で使用されています。

汐梨ホール



荒川キャンパスにあります。汐梨ホールは400席以上の客席を備え、本格的な音響設備、照明設備を有する総合文化ホールです。

情報基盤オペレーションセンター



品川キャンパスにあります。キャンパスネットワーク内では運用せず、AS (Autonomous System) 名 IOC、AS番号 146980として情報基盤オペレーションセンターを運用しています。本センターの情報基盤環境は、授業に加え社会人のリスクリング講座にも活用しています。

CAMPUS LIFE

1年生の一日

1年生は、コース共通混成クラス編成で機械・電気・情報の専門科目の基礎と一般科目を学びます。専門科目よりも一般科目を多く学びます。

ものづくり実験実習では10人程度のグループに分かれ、自らの手を動かし実験実習を行い、体験的に学習することでものづくりの基礎を身につけます。この経験をもとに、2年生で進みたいコースを選択します。授業は90分です。休み時間15分・昼休み50分で、学生食堂や生協を利用できます。

放課後は校内塾やパソコン室を利用して、授業の復習や課題に取り組むことができます。また、委員会活動やクラブ活動も行っています。

ものづくり実験実習では、ものづくりの基礎となる機械加工実習、電気電子実習、情報制御実習を行います。

数学、物理、語学などの講義があります。

月

火

水

木

金

8:40~10:10

1限 2限

基礎数学
I

保健体育
I

ものづくり実験
実習



前期:
基礎製図
後期:
基礎電気工学

前期:
情報リテラシー
後期:
プログラミング基礎

10:25~11:55

3限 4限

英語I



国語
I
(現国)

国語
I
(古典)

基礎数学
I

11:55~12:45

昼休み

学生食堂や
生協などを
利用します。



12:45~14:15

5限 6限

地理歴史
I

化学
I

芸術

物理
I

保健体育
I
(保健)

14:30~16:00

7限 8限

基礎数学
II

HR

放課後



クラブ活動、委員会活動などに取り組みます。

クラブ活動など

一般科目の授業

専門科目の授業



クラブ・同好会

5年一貫教育の高専生は、在学中、じっくりとクラブ活動に取り組むことができます。15歳から20歳以上の幅広い年齢層の学生たちが協力して、スポーツに、芸術に、専門分野のものづくりに取り組みます。この活動の中で学んだチームワークやリーダーシップの大切さは、社会人になっても活かせる財産です。

品川 キャンパス

[スポーツ系]		[文化系]	[技術系]
バスケットボール部	卓球部	吹奏楽部	電気通信部
ソフトテニス部	柔道部	写真部	高専ロボコン研究部
バレーボール部	剣道部	茶道部	ロボカップ研究部
バドミントン部	水泳部	英語研究部	省エネカー研究部
	テニス部		プログラミング研究部
			高専デザコン研究部
			モデリング研究同好会

荒川 キャンパス

[スポーツ系]		[文化系]	[技術系]
陸上競技部	テニス部	吹奏楽部	電気通信部
サッカー部	ソフトテニス部	音楽部	航空工作部
バスケットボール部	水泳部	民謡研究部	人力飛行機研究部
バレーボール部	軟式野球部	茶華道部	海洋環境研究部
バドミントン部	ワンダーフォーゲル部	奇術部	ロボット研究同好会
卓球部	フットサル部	折り紙同好会	応用物理研究部
柔道部	スキー同好会	数学クラブ同好会	航空機整備同好会
剣道部	ダンス同好会	将棋同好会	鉄道ジオラマ同好会
	ボルダリング同好会		自転車整備部

クラブ・同好会活動の詳細はホームページに掲載されています ▶▶▶▶▶▶



AWARDS

コンテスト・イベント受賞歴

高専では、運動系のクラブや、音楽部・吹奏楽部・茶道部など文化系クラブのほかに、専門分野をいかした技術系のクラブ・同好会が活躍しています。その舞台は、NHKの放送で有名なロボコンをはじめ、プログラミングコンテスト・ロボカップ・鳥人間コンテストなど、日本国内のみでなく世界規模の大会もあります。



ロボコン史上初の 自動ロボットの課題をクリア

NHKで放送されている高専ロボコンに出場するために発足したクラブです。高専ロボコンには約30年連続でエントリーしています。

航空高専時代から全国大会常連校として有名で、優勝・準優勝やロボコン大賞、技術賞など多数受賞しています。

2018年度は、ロボコン史上初めて自動ロボットのテーマが出題されました。写真では分かりにくいですが、ライトレースの技術を使って目標のテーブルに近づき、ペットボトルを投げテーブルに立たせました。難易度の高いテーマ設定であると感じ、一時期はエントリーチーム数を減らしたいとの意見も出ました。この困難な時期をチームワーク

で乗り越え、2チーム4台のマシンを作ることができました。このマシン4台で大会に参戦し、Aチームは準優勝・全国大会出場、Bチームは地区大会の最高得点を記録し、技術賞と特別賞のダブル受賞を果たしました。



全国高専デザコン2022 AM デザイン部門で優秀賞を受賞!

昨年2022年12月10日(土)、11日(日)の2日間で開催された第19回全国高等専門学校デザインコンペティション2022 in 有明のAMデザイン部門にて、本校高専デザコン研究部のチームが優秀賞を受賞いたしました。

AMデザイン部門は、3Dプリンタを活用した新しいアイデアを提案し競い合う部門です。今回は「新しい生活様式を豊かにしよう!」というテーマに対し、「ホジ保持ホジ」と題して、机の上などで思わずカップを倒してこぼしてしまう事を防ぐ新たなドリンクホルダーを提案しました。作品紹介のプレゼンテーションでは審査員へのアピールもしっかりとでき、見事受賞することができました。

高専デザコン研究部は過去にAMデザイン部門で最優秀賞(経済産業大臣賞)、プレデザコン部門の創造デザインフィールドで最優秀賞(JST 理事賞)などの成果を残しています。



【完全優勝!!】第28回全国高専 プログラミングコンテスト競技部門で 優勝!!

第28回全国高専プログラミングコンテストに品川キャンパスから競技部門に1チームが出場し、優勝(文部科学大臣賞を同時受賞)しました。また、作成したプログラムが評価され企業賞のDMM.comラボ賞も受賞しました。競技部門の内容は木で作られたパズルをいかに速く並べられるかを、作成したプログラムにより競う競技です。

他のチームは出題者から出されたヒントを使って問題を解くプログラムを作りましたが、ヒントを使うと減点されてしまうため品川キャンパスチームはヒントを使わずに画像処理を使って問題を解くプログラムを作りました。その結果、1回戦から決勝まで本校だけが全て満点を取り、完全優勝となりました。さらに高専プロコンでの優勝の成果が評価されBCN ITジュニア賞を受賞しました。



第42回鳥人間コンテスト2019で 「THE BEST BIRDMAN賞」 「彦根市長賞」をW受賞

人力飛行機研究部は、毎夏、琵琶湖湖畔で行われる「鳥人間コンテスト」に出場して記録更新することを目的に、1995年に創部しました。コンテストには1999年に初出場し、以後「Team YTR」というチーム名で、これまでに計19回、滑空機部門に出場しています。

主に大学生や社会人が活躍する中、高専ならではの高い技術力を持つ最年少チームとして注目されており、2001年には滑空機部門3位に入賞、2013年にチーム最高滑空距離330.98m(大会順位4位)の記録を残しています。

2019年のコンテストでは、天候に恵まれない中、見事なフライトを成功させたことが高く評価され「THE BEST BIRDMAN賞」「彦根市長賞」の二つの賞を受賞しました。この勢いに乗り、次のコンテストで久々の記録更新、そして入賞を目指し、今も活発に活動しています。

